

平成29年度「自己評価結果報告書」

学校法人 上平井幼稚園

当園ではこの度、平成29年度の幼稚園学校評価として、教職員による自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この自己評価の結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

①人間形成の基礎を育てる

幼稚園とは、子ども社会の中でお互いの心や身体の痛みを知り、成長していく場所。まわりの子ども達との関わりの中でやさしさ、思いやりの心を育み、相手の気持ちを察することのできる子に育つよう指導・援助していきます。

②豊かな表現力を育てる

音楽表現、絵画・言語表現、身体表現など、自分の気持ちをあらゆる方法で表現する子どもは、さまざまな活動を通じて成長します。しかし、結果重視の教育では表現の幅を狭め、才能の芽を摘むことにもなりかねません。プロセスを大切に、時間をかけて適切に指導・援助していきます。

③たくましい心と体を育てる

心の成長に、身体の成長は欠かせません。「本来のたくましさと感情の豊かさである」と考え、子どもの「やってみよう」を大切に、体力・運動能力の向上を図っています。2歳児から5歳児まで、それぞれに独自のカリキュラムを用意し、個々の特性に応じて指導・援助していきます。

④自ら考え、自ら判断し、行動できる子を育てる

脳が急速に発達する幼児期は、思考力、想像力、判断力を育てるのに最適な時期です。当園では、教師と子ども達が共感し合い、「気づき」と「発見」を喜び合う『SIあそび』を通じて、幼児が自ら学んでいく力を育て、個々の特性に応じて指導・援助していきます。

II. 本年度の重点的な目標

- 園内研修の充実による教職員の資質向上
- 保護者との連携の充実
- 食育の充実
- 保育内容の充実

III. 評価項目と取組み状況

| 評価項目 | 取組み内容 | 取組み状況 |
|-----------|---|---|
| I 保育内容の充実 | 教育目標を教職員一人一人がきちんと理解し、達成するためにはどのような活動や言葉かけをすべきか考え、保育内容の更なる充実を目指す。行事等での保護者への説明事項等を全教職員でルールをきちんと理解する。支援の必要な子どもへのフォローの仕方や保護者との関わりについての勉強の場を設ける。 | A 週案会で学年ごとに長期・短期の目標を確認し、クラスや子ども一人ひとりに合わせた活動を工夫しながら進めることができた。 また、講師を招いて研修会を実施し、支援の必要な子どもにどの関わり方について保育に活かすことができた。 |

平成29年度「自己評価結果報告書」

学校法人 上平井幼稚園

| 評価項目 | | 取組み内容 | 取組み状況 | |
|------|--------------------|---|-------|---|
| 2 | 保護者との連携の充実 | 保護者との個人面談を継続し、子どもの成長や保育について共通理解を深める機会を充実させる。事前に面談用紙を配付し相談内容等をご記入いただけるようにし面談内容の充実を図る。 | A | 定期的実施した個人面談では、家庭での子どもの様子を聞くことで保育目標を立てる上での参考にできた。また、保護者と園との共通理解を深めることができ、子ども一人ひとりの様子に合わせた対応ができた。 |
| 3 | 食育の充実 | 教職員と栄養士・調理スタッフとの協力・連携体制を整え、子ども達の「選食力」「食事のマナー」「文化の伝承」へとつなげる。また、ご家庭への食育に関する情報発信を充実させ、保護者との共通理解を深める。 | A | 給食メニューを工夫することで、苦手な物も食べられるようになったという声を保護者から頂いた。二十四節気のランチョンマットを使い始め、季節を感じる工夫をしたり、さんまの日、味噌づくり、ふりかけづくりなどを通じ、子どもの食に対する関心が高まった。 |
| 4 | 園内研修の充実による教職員の資質向上 | SIあそびの専門講師による園内研修を定期的実施し、意見交換やアドバイス・指導を受ける機会を設けたり、教職員間で互いの指導方法を見せ合い話し合う機会を設けることで、教職員の知識・技能の向上を図る。 | B | 専門講師を招いて研修を年間3回行った。また、5月に園内での独自研修を実施し、ビデオの映像を見ながら意見交換を行い改善方法を考えることができた。SIあそびの指導方法について、更に深く教職員間で話し合う機会を増やし、指導方法の統一化を図っていきたい。 |

【評価の基準】

| | |
|---|-------------------|
| A | 十分達成されている |
| B | 達成されている |
| C | 取組まれているが、成果が十分でない |
| D | 取り組みが不十分である |

IV. 今後取り組むべき課題

| | | |
|---|--------------------|---|
| 1 | 保育内容の充実 | 教育目標を教職員一人一人がきちんと理解し、達成するためにはどのような活動や言葉かけをすべきか考え、保育内容の更なる充実を目指す。行事等での保護者への説明事項等を全教職員でルールをきちんと理解する。 支援の必要な子どもへのフォローの仕方や保護者との関わりについての勉強の場を設ける。 |
| 2 | 保護者との連携の充実 | 保護者との個人面談を継続し、子どもの成長や保育について共通理解を深める機会を充実させる。事前に面談用紙を配付し相談内容等をご記入いただけるようにし面談内容の充実を図る。 |
| 3 | 食育の充実 | 教職員と栄養士・調理スタッフとの協力・連携体制を整え、子ども達の「選食力」「食事のマナー」「文化の伝承」へとつなげる。また、ご家庭への食育に関する情報発信を充実させ、保護者との共通理解を深める。 |
| 4 | 園内研修の充実による教職員の資質向上 | SIあそびの専門講師による園内研修を定期的実施し、意見交換やアドバイス・指導を受ける機会を設けたり、教職員間で互いの指導方法を見せ合い話し合う機会を設けることで、教職員の知識・技能の向上を図る。 |

以上